

第37回東京CCU研究会の開催にあたって

会長 丁 毅文
綾瀬循環器病院 院長

このたび、第37回東京CCU研究会を開催させていただく事になりました。歴史ある研究会を主催させて頂けることを大変光栄に思います。

東京都CCU連絡協議会は1978年に東京都から委託・設立され、当初の限られた施設から、今や東京都全域をカバーする組織に改編され、すべての都民に起こる急性心血管疾患に対し最新の治療を迅速に提供できる組織となりました。本研究会の歴史はこの間の冠動脈疾患治療の進歩と重なり、急性心筋梗塞死亡率は、20.5%（1982年）から5.5%（2016年）に激減しました。

1967年、急性冠動脈疾患の救命率向上を目的に榊原任先生らにより国内初のCCU（Coronary Care Unit）が開設されました。その後、先人たちの知恵と努力により、今日のCCUは冠動脈疾患に限らず、あらゆる急性心血管疾患を受け入れるCardiovascular Care Unitとしてその役割は拡大しています。2016年の東京CCU収容患者調査では急性心筋梗塞（5,235例）、狭心症（2,537例）を主とする冠動脈疾患から急性心不全（6,216例）、急性大動脈疾患（1,884例）、不整脈（1,770例）、肺塞栓（502例）、急性心筋炎を含む心筋症（353例）など多岐にわたる急性心血管疾患をネットワーク72施設のCCUで受け入れています。

今後の東京都CCUネットワークは、医学的発展はもとより疫学データ解析、情報共有、医療界のみならず市民レベルの啓蒙を通して、多くの急性心血管疾患を迅速に受け入れ、救命率を改善させる可能性があります。特に2011年に開設した急性大動脈スーパーネットワークの調査結果では、急性大動脈解離の発生頻度（8.8例/10万人年）が従来の疫学データ（2.53-5.2例/10万人年）を上回り、死亡数は心不全の次ぎに多く、死亡年齢も心不全の80歳台と比較して60歳台でありました。したがって急性大動脈解離の重大性は明らかで、スムーズに機能する緊急大動脈診療システムネットワークの構築が必要であり、さらなる治療成績の改善が期待されています。

“CCUの可能性 ユニットからネットワークへ”を本年の研究会のテーマとして、各研究班の活動実績報告、一般演題、救急隊搬送事例報告、シンポジウムを交えながら、循環器救急医療について多角的に検討いたします。

例年のように、多くの加盟施設や関連施設の医師・コメディカルの皆様から、演題応募を受け付けたいと思います。どうか奮ってご参加頂きますよう、重ねてお願い申し上げます。

【開催概要】

- ◆期 日： 平成29年12月2日(土)
- ◆場 所： ステーションコンファレンス東京
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-17-12 サピアタワー
- ◆プログラム：活動実績報告、学術委員会報告、教育講演、ランチョンセミナー、救急搬送事例報告
シンポジウム、一般演題（口述、ポスター）などを予定。
- ◆演題募集と応募方法： 別に示します。
- ◆問い合わせ： 〒151-0053 渋谷区代々木2-5-4 東京都CCU連絡協議会事務局 吉田伸子
E-mail: ccunet@nms.ac.jp TEL:03-6300-0317 FAX: 03-6300-0318
〒120-0006 足立区谷中2-16-7 綾瀬循環器病院 高橋 英幸
E-mail: takahashi@ayaseheart.or.jp TEL: 03-3605-2811 FAX: 03-3605-2118